

ウヴェ・コミシュケ氏 マスタークラス報告書

トランペット科講師 古田賢司

2018 年 11 月 1 日（木）18 時 30 分

シルバーマウンテン 1F

チェリビダッケ時代のミュンヘン・フィルハーモニーで首席トランペット奏者を務め、現在リスト音楽院の教授であるウヴェ・コミシュケ氏によるマスタークラスを実施しました。

マスタークラスに先立ち、コミシュケ先生が模範演奏として、

J. ハイドン / トランペット協奏曲 変ホ長調

T. アルビノーニ / トランペット協奏曲 変ロ長調

の 2 曲を素晴らしいサウンドで演奏して頂きました。（伴奏 中村真理）

マスタークラスの最初のセクションはトランペットの基礎練習についてのレッスンが行われました。

（通訳:武内 安幸）

コミシュケ先生著のエチュードを使いドイツにおけるレッスンのスタイルで、受講者 40 名全員が楽器を出し、コミシュケ先生の演奏するお手本に続いて演奏するという形式で行われました。

分散和音のフレーズをリップスラーで演奏した後にアタックで演奏するというスタイルで、スラーでもアタックでも同様の息の使い方をサウンドを、というコンセプトで行いました。またインターバルの課題でもスラーとアタック両方で演奏しました。

このレッスンにおいてはコミシュケ先生と交互に演奏するので、先生のサウンド、息使いをコピーする事ができ、手応えを感じる受講生も多かったと思います。

また先生は歌う事とトランペット演奏の関係性、共通性について何度も仰っており、胸や喉をリラックスした状態で「Ah-」と声を出して歌い、全く同様のフィーリングでトランペットを演奏すべきである、と強調されていました。

その他、シラブルや呼吸に関してのレクチャーもありましたが、トランペットを演奏する、という事や練習への取り組みに関しての心構えについて熱心に考えを教えて頂きました。

続いては独奏曲のレッスンで、トランペット専攻の 4 年生が

L. モーツァルト / トランペット協奏曲ニ長調

を演奏し受講しました。

彼の演奏に対して先生は、「大変な難曲をピッコロトランペットで良く演奏していて、君はプロになれる可能性があるかもしれない。ただし問題点も多くある。」と仰り、フレーズに対する息の流れのアプローチなどの幾つかのトライを行い、見る見るうちに素晴らしい演奏になって行くエキサイティングな瞬間を、会場に居た受講生、教員は感じる事ができました。

また先生は楽器やマウスパイプについて、その部分についても準備を整える事の重要性も強く仰っていました。

